



RID2790職業奉仕委員会
2022-23年度

職業奉仕の歴史と変遷

ロータリーの樹



* 『ロータリーの樹・2008』を一部修正いたしております。

ここに示した「ロータリーの樹」は、2008年に、当時の渡辺好政RI理事が、RI国際協議会で行なった「ロータリーにおける職業奉仕の重要性について」という講演で示したものです。

そしてこれは「ロータリーの樹・2008」として、2013年のRI規定審議会において正式に採択されました。

ここで着目していただきたい点が二つあります。

一つは、職業奉仕が「ロータリーの樹」の「幹」となっていることです。

もう一つは、「ロータリーの樹」の「根」の部分に、「四つのテスト」「超我の奉仕」「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」「親睦と奉仕」といった「奉仕の理想」の基本概念が示されていることです。

まさに「根」と「幹」、ロータリーの「根幹」が、「奉仕の理想」と「職業奉仕」で構成されている訳です。

2008年RI国際協議会

「ロータリーにおける職業奉仕の重要性について」

講演 渡辺好政RI理事

「ロータリーの樹・2008」 → 2013年RI規定審議会で採択

「1905年、ポール・ハリスら4名によって創始された最初のロータリークラブは、その歴史が示すように、初めに、親睦、助け合いから始まりました。すなわち、ロータリーの樹に水と栄養を送る「根」は「クラブ奉仕」であります。

ロータリークラブ会員は、クラブという学校で相手のことに思いを馳せ、相手を助けるという『奉仕の理想』を学び、その真意が『共存共栄』であることがわかります。

『クラブ会員』は、ロータリーの目的を基本として、H.テラーによって実証され、ロータリアンの行動規範である「四つのテスト」による奉仕活動の実際を体得することによって、『ロータリアン』に進化してまいります。

ロータリークラブ会員からロータリアンに進化してゆく過程の基盤には、A.シェルドンの『超我の奉仕』『最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる』が存在いたします。私たちは、この2つのモットーを1枚のコインの表・裏と考えながら、日常の奉仕活動に邁進しております。ロータリーは「理念の高唱」に終わるのではなく「行動の哲学」なのであります。」

草創期

1905年2月、ポール・ハリス、ガスターバス・ローア、シルベスター・シール、ハイラム・ショーレイの4人が集い、一業種一人で『実業互恵』と『親睦』の2つをクラブ方針としてロータリークラブが誕生しました。

1906年、ドナルド・カーター入会前に、「会員同士が仲良くなって、金持ちになろう」と言うのは、会員だけのエゴイズムと入会を拒否。

定款改定 第3条 シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める。を追加。奉仕の理念が導入されたことでドナルド・カーターは入会。

ここで「親睦」と「奉仕」が融合したクラブとなる。

その後の変遷

1910 全米ロータリー大会（シカゴ）～1911（ポートランド）
アーサー・フレデリック・シェルドン

He profits most who serves his fellows best

→ 1921年、シェルドンが「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」
（He profits most who serves best）に修正し、行動理念として提唱。

→ 2004年の規定審議会でHeをThey、2010年の規定審議会でTheyをOneに。

ベンジャミン・フランクリン・コリンズ

演説でコリンズが「無私の奉仕」（Service not Self）を引用

→ 後に、コリンズの「無私の奉仕」はいきすぎであるとし、
「超我の奉仕」（Service above Self）に修正される。

1912 「ロータリーの目的」（旧「ロータリーの綱領」）を制定する。

1915 サンフランシスコ大会 ロータリーの倫理訓（道德律）が採択される。

第11条 マタイ伝からの引用 第6条 厳しすぎるサービスなどの批判から、1951年にはロータリーのあらゆる文書から消える。これに代わるものとして、1989年、ロータリアンの職業宣言（Declaration of Rotarians in Businesses and Professions）を採択した。

（Ideal of Serviceの提唱）

1922 ロサンゼルス大会 身体障害児救済事業に関する決議案を提出。
シェルドンを中心とする理念派とアレンを中心とする実践派の対立が分裂の危機へ。

1923 セントルイス大会 決議23-34（「綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針」）を採択。

1926年のデンバー国際大会で「社会奉仕に関するロータリーの方針」に名称変更がなされた（26-6）。その後も少しずつ改正を加えられ、現在にいたっている。

→ 決議23-34 第6条g項が、「論争に終止符」と言われている。

「ロータリアン個人にも、ロータリークラブにも、奉仕の理念に基づく実践が求められているが、ロータリーの奉仕活動の実践は個人奉仕が原則であって、クラブが行う奉仕活動は会員の訓練のための例示である」ことが明記された。

1927 ベルギーオステンド国際大会

奉仕部門を四大奉仕、すなわち、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕に分けることが決定

1932 ハーバート・テラー 会社再建のため「四つのテスト」考案し実践する。
その後RI理事会は「四つのテスト」を職業奉仕の構成要素として採用する。

1954 ハーバート・テラー「四つのテスト」の著作権をRIに寄贈する。

1987 職業奉仕に関する声明 (Statement on Vocational Service)

職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが、育成支援する方法である。

1. あらゆる職業において最も高度の道徳的水準を守り、推進すること。その中には、雇主、従業員、同僚への誠実、忠実さ、また、この人達や同業者、一般の人々、職業上の知己すべてへの公正な取り扱いも含まれる；
2. 自己の職業またはロータリアンの携わる職業のみならず、あらゆる有用な職業の社会に対する価値を認めること；
3. 自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること。

2016年規定審議会

「制定案16-10 奉仕の第二部門を改正する件」を採択

標準ロータリークラブ定款

第6条 五大奉仕部門

2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。